

令和6年8月18日

南の風パリ五輪女子日本代表特集号

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

いやー大変残念な結果でした！ 女子日本代表3連敗で予選敗退となりました。

南の風ですぐ特集を組もうと思ったのですが、頭が真っ白となり考えがまとまりませんでした。日本中のバスケファンにとってつらいパリ五輪になってしまいました。

やっと「書いてみよう」という気になりました。今回は予選の試合を事細かく書くのではなく、試合の大きな流れと私の考えを書きます。

予選で戦ったアメリカ、ドイツ、ベルギーは、以前よりさらにさらに進化していました。特にアメリカは無双の強さでした。特に気づいたことを中心にアメリカ戦を振り返ります。

結果（アメリカ102対日本76）はともあれ、次のことが並外れていました。

☆190cm以上の選手が走ってくる（193cmエイジャ・ウィルソン24点、191cmブリアナ・スチュアート22点）とにかくトランジションを含め走ってくる。走ることでノーマークあるいはクローズアウトを作られてしまった

☆ガードのポストへのパス入れが防ぎきれなかった（187cmチェルシー・グレイ13アシスト）恩塚 HC が強調していた、相手オフェンスの起点となる「パスの出所を抑える」ことができなかった。高さのあるインサイドにボールを入れられてしまったら、得点される確率が上がってしまうので、その前段階、パスを出す選手を抑えるというプランがうまく実行できなかった。

日本は前半、ディフェンスが機能しアメリカに食らいつき、1Q **アメリカ22対日本15**、2Q **アメリカ28対日本24**と善戦しました。**アメリカ50対日本39**。ただ後半ディフェンスのギアが上がらず3Q **アメリカ29対日本19**、4Q **アメリカ23対日本19**、**計アメリカ102対日本76**という結果でした。

高田選手は、前半宮崎選手からのパスを受け3Pシュートを決め波に乗り、8本の2Pシュートをすべて沈め、トータルチームハイの24点を上げました。特に後半の頑張りは見事でした。山本選手は3Pシュート5本を含め17点得点5アシスト、宮崎選手は12点得点4アシストでした。

よくオフェンスとディフェンスは表裏一体と言われます。このアメリカ戦も正にその通りでした。オフェンスでリズムよく攻め得点できると乗ってくるので、ディフェンスもよくなりさらに頑張れるのですが、反対にシュートが落ちだしたり、ターンオーバーになったりすると、一瞬気持ち落ち込みディフェンスへの気持ちの切り替えが遅くなってしまいます。後半アメリカにこうした一瞬のスキを突かれ得点されるケースが何度か出てしまいました。

こうしたことは程度の差こそありますが、U15、12でも起こってきます。我々指導者は、しっかり把握し選手をサポートする必要があります。

それにしてもアメリカチームの強さは抜きん出ていました。東京五輪の時に比べ一段とパワーと走力、そしてシュートを含めたスキルが向上していたように思いました。その裏にはWNBAの充実はもちろんのこと、大学NO.1を決めるNCAAトーナメント決勝で、男子を抑えて女子が全米でテレビ視聴率第1位という盛り上がりや層の厚さがあるのだなと感じました。